

平成30年度 授業改善推進プラン

【学年 1年生】【教科 国語】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校が「目指す授業」は、生徒に授業の見通しをもたせ、主体的な学びから対話的な学びへとつなげ、問題解決的な学習の展開により考えを深めたり広めたりし、自分の考えを表現することにより振り返りが重視される授業である。また ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none">• おおむね授業に意欲をもって取り組み、学習に積極的な態度である。• 話し合い活動は、どの生徒も意欲的に取り組める。• 論理的な思考、表現力のつたなさ、批評的な視点をもてない点に課題が見られる。• 文法理解に課題が見られる。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

<ul style="list-style-type: none">• 宿題や提出物への取り組む姿勢に個人差がある。• 物語や詩など叙情的な読み取りと比較し、説明的文章の読解が苦手である。また、「話す」「聞く」分野での批判、批評的内容に苦手意識が強い。• 文法理解がおしなべて苦手であり、取り組みが消極的である。
--

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
生徒同士学び合う機会を増やす	<ul style="list-style-type: none">• グループワーク後のフィードバックの時間を確保し、生徒同士で学び合う機会を持つ。• 文法理解についても同様にグループワークを取り入れる。
基礎学力の育成	<ul style="list-style-type: none">• なかなか漢字を覚えられない生徒のため、漢字テストを継続的に行う。• 書く力を養うために、要約や短作文の練習を繰り返し行う。また、書くことに苦手意識をもたせないために創作などの活動も取り入れる。
振り返りの充実	<ul style="list-style-type: none">• 毎時間どのようなことを学習したか振り返り、自分の分かったこと、分からなかったことを自覚するために、振り返りシートを活用する。• 授業の初めには、毎回前時の振り返りを行う。

平成30年度 授業改善推進プラン

【学年 1年生】 【教科 社会】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校が「目指す授業」は、生徒に授業の見通しをもたせ、主体的な学びから対話的な学びへとつなげ、問題解決的な学習の展開により考えを深めたり広めたりし、自分の考えを表現することにより振り返りが重視される授業である。また ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none">授業規律は確立されている。意欲的に授業に臨む生徒が多い。発言も全般に積極的だが偏りがある。読み取った内容や聞き取った内容ノートにまとめる力が身に付き始めている。基礎、基本の知識の定着には差ができては始めている。技能を活用し、課題を解決する力が不足している。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

- 既習事項の確認を徹底し、基礎、基本の内容の定着を図るため、様々な場面で復習の機会を増やす必要がある。
- 思考力・判断力・表現力等の育成を通し、課題を解決する力を高める必要がある。
- 家庭学習の習慣を定着させ、内容、質をより充実させる必要がある。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
基礎基本の定着	<ul style="list-style-type: none">前時の学習内容の要点、重要語句等を授業の導入前に確認する時間を設ける。授業内で復習事項の確認を随時取り入れていく。単元毎に復習ワークを必ずやる。目標を必ず提示する
課題解決に必要な力の育成	<ul style="list-style-type: none">読み取る力、自分の考えを書く力、述べる力を高める機会を1時間の授業で必ず取り入れる。思考する場面においては十分に考える時間を確保し、習慣化させる。グループ活動を取り入れ、意見交換をする時間を確保し、多面的な考え方ができるようにする。

平成30年度 授業改善推進プラン

【学年 1年生】【教科 数学】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。立川第七中学校が「目指す授業」は、生徒に授業の見通しをもたせ、主体的な学びから対話的な学びへとつなげ、問題解決的な学習の展開により考えを深めたり広めたりし、自分の考えを表現することにより振り返りが重視される授業である。また ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	「分かるようになりたい」、「頑張ろう」という意欲は高い。また、積極的に発表しようとする生徒も多い。その反面、既習事項の定着が不十分であったり、複数の事項を用いる課題になると混乱してしまったりすることから、一人で学習を進めることが難しく、一人一人に寄り添った支援を必要とする。
定期考査	観点【数学的な見方・考え方】の問題(主に、文章題)の達成率が低い。授業中に扱った問題についてはクリアできることも多いが、文章表現を改めたり、授業中に扱っていない問題については一層顕著である。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

- * 授業中の意欲を、家庭学習につなげさせる。
- * 小学校での学習内容も含め、既習事項の定着を図る。
- * 既習事項を用いる力、また、複数の既習事項を関連させて考える力を育てる。
- * 文章を丁寧に読み、粘り強く解釈しようとする姿勢を身に付ける。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
既習事項の 定着・活用 授業展開の工夫	<ul style="list-style-type: none">* 授業や課題解決の見通しをもたせるために、その時間に必要とする既習事項の復習や類似事項の提示の仕方を工夫する。* 習熟の程度の低い生徒のグループにおいては、指導計画を工夫してスモールステップで授業を展開する。* 『 個で取り組む→グループで交流(または、支え合い学習)する→全体で交流・確認する 』という流れを、指導計画を工夫してできるだけ多く取り入れる。 (「自分の考えをもち表現する」場を多く取り入れた授業展開の工夫) 例えば、<ol style="list-style-type: none">1 グループで問題の相互〇付けをさせる。2 やり方が複数ある課題については、個で複数のやり方を考えさせ、時間配分を多めに計画してグループで交流させる。3 文章題については、文章の解釈も交流させる。→ この交流のなかでの生徒相互の気づきが深い学びとなり、そのことが主体的な学びを促すよう工夫する。

平成30年度 授業改善推進プラン

【学年 1年生】【教科 理科】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校が「目指す授業」は、生徒に授業の見通しをもたせ、主体的な学びから対話的な学びへとつなげ、問題解決的な学習の展開により考えを深めたり広めたりし、自分の考えを表現することにより振り返りが重視される授業である。また ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none">授業の様子は、クラスによっては落ち着いて取り組めない生徒もいるが、おおむねどのクラスも落ち着いて真剣に取り組んでいる。授業での挙手の回数は、クラスによって異なり、多いクラスで半数程度の生徒がよく挙手をするが、少ないクラスでは、四分の一程度の生徒しか挙手しない。また、どのクラスも挙手する生徒はおおよそ限られている。植物の分野では、スケッチの課題を多く課したが、作業に関しては、多くの生徒が意欲的に丁寧に取り組んでいる。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

- 植物分野では、考査の出来具合もふくめてみると、学力面では全体的によくできている。ただし一部の生徒の考査に向けての取り組みが不十分であった。
- 化学や物理分野も、今年度の生徒は、小学校でやった内容は比較的よくできている。計算が入る部分は苦手意識をもつ生徒がおり、この対応が課題である。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
・ 計算など難しい内容の部分	・ 基礎的な内容に十分な時間をかけ、特に計算がかかわる部分は、小学校算数の内容の復習も取り入れて進め、できるだけ多くの生徒が分かるように授業を進める。
・ 実物をイメージさせる	・ 教師用タブレットでデジタル教科書を用いて、実物をしっかりとイメージさせる。また、タブレットのカメラ機能で実物を写して紹介する回数を増やす。
・ 4人グループでの作業や話し合いを増やす	・ 理科室での実験や観察は、4人グループを原則に行っているが、教室で行う実験や話し合いでも、4人グループを原則に行い、その回数をできるだけ増やす。

平成30年度 授業改善推進プラン

【学年 1年生】 【教科 音楽】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校が「目指す授業」は、生徒に授業の見通しをもたせ、主体的な学びから対話的な学びへとつなげ、問題解決的な学習の展開により考えを深めたり広めたりし、自分の考えを表現することにより振り返りが重視される授業である。また ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	多くの生徒が授業における規律やルールを守り、意欲的に取り組んでいる。実技面において、理解力に個人差があるため、簡単な発声をリレー形式で一人一人が自信をもって歌える機会を設け、個に応じた指導を取り入れている。また音楽を楽しみに授業に来ている生徒も多く、スモールステップでペアワークやグループワークといった活動を行い、一人一人の自信につながっている。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

各領域・分野に応じて、様々な指導を行っているが個人差がある。例えば歌唱においては、音程を合わせていくことや表現の幅を広げることなどである。また鑑賞では、曲想のイメージを感じ取って聴くことができるが、それを音楽全般につなげていくことに課題がある。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
基礎・基本、技能の向上	<ul style="list-style-type: none">教師の口の開け方の真似をさせる。発声練習を充実させ、綺麗な声で歌えるよう基礎的な技能を身に付けさせ、グループワークを取り入れる。
個に応じた指導	<ul style="list-style-type: none">合唱を通して、核となるリーダーを育て、お互いに学び、高め合う姿勢を作る。音程の確認のため、ワンフレーズテストを用い、苦手な生徒に対して、一人一人細やかな指導を行う。

平成30年度 授業改善推進プラン

【学年 1年生】【教科 美術】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校が「目指す授業」は、生徒に授業の見通しをもたせ、主体的な学びから対話的な学びへとつなげ、問題解決的な学習の展開により考えを深めたり広めたりし、自分の考えを表現することにより振り返りが重視される授業である。また ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none">与えられた課題に対して素直な気持ちで取り組み、意欲的である。基礎的な表現力や理解力に個人差があり、聞く力や考える力を必要とする生徒がいる。作業の進み具合の個人差が大きく、授業外での制作を必要とする生徒がいる。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

<ul style="list-style-type: none">学習意欲があっても美術作品としての表現力に結び付かない傾向がある。それぞれの課題について、生徒の表現活動における課題を細かく観察して、適切な指導を行うことが課題である。言葉による理解力の個人差があるため、なるべく多くの生徒が分かりやすい言葉を効果的に使用することや、伝えたい内容を分かりやすく ICT 機器を活用して、視覚的に指導することが課題である。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
ICT の活用	<ul style="list-style-type: none">効果的な表現方法が理解できるように、個に応じた制作のポイントをタブレットの活用で映像と画像を例示し、視覚的に把握させる。
個に応じた指導	<ul style="list-style-type: none">前時の振り返りを行い、学習内容のねらいや表現活動の目標を毎時間明確にさせ、自己の課題を生徒一人一人に把握させる。
教材の工夫	<ul style="list-style-type: none">生徒の優れた表現をタイムリーに実物投影機を用いて紹介し、表現力を高める技法を理解させる。

平成30年度 授業改善推進プラン

【学年 1年生】 【教科 保健体育（男子）】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。立川第七中学校が「目指す授業」は、生徒に授業の見通しをもたせ、主体的な学びから対話的な学びへとつなげ、問題解決的な学習の展開により考えを深めたり広めたりし、自分の考えを表現することにより振り返りが重視される授業である。またICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	各領域、単元、種目ごとに、運動体験が不足している生徒が見られる。
東京都統一 体力テスト	全国の平均値を多くの種目で（握力 3.4 kg、上体起こし 0.3 回、反復横とび 1.2 点、持久走 4.9 秒、50m 走 0.3 秒、立ち幅跳び 9.5 cm、ハンドボール投げ 0.9m）下回った。特に握力は大きく下回っている。上体起こし、50m 走は全国平均値に近い数値になっている。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

- ・ 始業のチャイムの前に集合、整列が完了しており、授業に意欲的に取り組んでいる。また、相互に教え合ったり学び合ったりしようとしている生徒が多い。よって、今後は言語活動の充実を図り、学力のさらなる向上につなげるために、計画的に指導していく必要がある。
- ・ 体力テストの結果より、全体的に全国平均値を下回っているが、特に握力が低い傾向にあり、ものを握る筋力を向上していく必要がある。また、50m走の筋力と瞬発力に関しても3年間を見通して向上させていく必要がある。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
言語活動の充実	・ 言語活動を充実させるために、ICT 機器を積極的に活用し、課題解決に向けて、協働的な学びの中で課題に応じたアドバイスや取り組みの工夫について伝達する場面を意図的・計画的に設定する。
体力の向上	・ 新体力テストにおいて数値が全国の平均値を下回っている種目があるため、毎回の授業の中で補強運動（動きを持続する能力、巧みな動きを高める運動を中心に行う）を行い、体づくり運動の体力を高める運動と他の単元とを関連させて指導することで、体力や運動能力の向上を図る。

平成30年度 授業改善推進プラン

【学年 1年生】 【教科 保健体育（女子）】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。立川第七中学校が「目指す授業」は、生徒に授業の見通しをもたせ、主体的な学びから対話的な学びへとつなげ、問題解決的な学習の展開により考えを深めたり広めたりし、自分の考えを表現することにより振り返りが重視される授業である。またICT機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	・各領域、単元、種目ごとに、運動体験が不足している生徒が見られる。
東京都統一 体力テスト	・体力テストの結果で、全国の平均値を下回った種目(握力 19.2 kg、長座体前屈 40.5 cm、持久走 313 秒、立ち幅跳び 154.4 cm)の記録の向上が課題である。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

各領域、単元、種目ごとに、楽しさや喜びを味わうことができている。また積極的に取り組もうとしている。しかし運動体験が不足している生徒が見られるため、それぞれの特性に応じた、きめ細かな指導が課題となる。定期考査においては二極化がみられ、学習の定着や取り組み方に課題がある。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
基礎・基本、 技能の向上	<ul style="list-style-type: none">・ 運動の特性理解と反復練習等による基礎・基本、技能の向上の定着。・ 学習カードを活用し、運動のポイントを明記する。また自分の言葉で考えを表記することや発信し表現ができる場を設ける。
教材の工夫	<ul style="list-style-type: none">・ 技能差に応じた場の設定をする。・ ICTを活用し視覚的に自己の動きを確認し、課題解決や分析ができるようにする。・ 運動の楽しみ方や練習法、体力の高め方などイラストや写真・動画・学習カードを用いて示す。・ 毎回の授業の中で補強運動(動きを持続する能力、巧みな動きを高める運動を中心に行う)を行い、体づくり運動の体力を高める運動と他の単元とを関連させて指導することで、体力や運動能力の向上を図る。

平成30年度 授業改善推進プラン

【学年 1年生】 【教科 技術】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。立川第七中学校が「目指す授業」は、生徒に授業の見通しをもたせ、主体的な学びから対話的な学びへとつなげ、問題解決的な学習の展開により考えを深めたり広めたりし、自分の考えを表現することにより振り返りが重視される授業である。またICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none">どのクラスも男女の仲が良く、挨拶などの礼儀も良い。生徒の規範意識は高く、真面目な授業態度である。授業に対して意欲的に取り組む姿勢があり、積極的な発言も多く活発に活動する様子が見られる。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

授業に意欲的に取り組む姿勢が見られるにもかかわらず、定期考査の結果やワークシートの点検などから、学習内容を十分に理解していない生徒が少なからずいると思われる。その場限りの知識ではなく、確かな知識の定着が課題である。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
ICT の活用	<ul style="list-style-type: none">1年生は作業経験が少なく作業の見通しを立てにくい。タブレットで作業動画を視聴させるなどのICT 機器の効果的な利用で、製作経験の不足を補う工夫をする。
教材の工夫	<ul style="list-style-type: none">見通しをもって作業ができるように、作業資料の充実を図る。また、時間内で作業が終了するデザインの改良や分かりやすい指導の工夫を重ねていく。
助け合う学習	<ul style="list-style-type: none">少人数班（4人班）を活用し、授業内で必ず一人一役ができるように役割分担をするなどの工夫を図り、生徒が考え協力して課題解決をする場面を設定する。

平成30年度 授業改善推進プラン

【学年 1年生】【教科 家庭】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。立川第七中学校が「目指す授業」は、生徒に授業の見通しをもたせ、主体的な学びから対話的な学びへとつなげ、問題解決的な学習の展開により考えを深めたり広めたりし、自分の考えを表現することにより振り返りが重視される授業である。またICT機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none">ほとんどの生徒が授業における規律やルールを守り、素直に意欲的に取り組んでいる。課題に対しては、説明をしっかりと聞き、よく考えることができる生徒と自分だけで取り組むことが難しい生徒との差はある。また、集中力や意欲や技能に課題がある生徒もいる。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

新たな気持ちで中学校の学習に取り組んでいるが、工夫して考えるということに苦手意識のあり、これへの対応が課題である。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
基礎・基本 技能の向上	<ul style="list-style-type: none">グループの中で考えを出し合ったり、協力して実習をしたりすることで互いの特性を理解し、よいところを取り入れ高め合えるようにする。実習計画や実習の記録を丁寧にまとめられるようにする。上手にまとめられているものを参考になるようにできるだけ紹介していく。
教材の工夫	<ul style="list-style-type: none">基礎的、基本的な技術を習得させ、家庭でも応用できる調理実習を行う。ICT機器を用いた授業を行い、学習内容の確認と定着を心がける。
主体的・対話 的で深い学び の工夫	<ul style="list-style-type: none">既習事項や実生活での体験を踏まえ、よりよく生活するための方法を考え、グループでの意見交換や発表をしようことで、自分の生活を振り返り、実生活に生かせる力を付けさせる。

平成30年度 授業改善推進プラン

【学年 1年生】【教科 英語】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校が「目指す授業」は、生徒に授業の見通しをもたせ、主体的な学びから対話的な学びへとつなげ、問題解決的な学習の展開により考えを深めたり広めたりし、自分の考えを表現することにより振り返りが重視される授業である。また ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none">・小学校の外国語活動での学びがあり、挨拶や自己紹介など簡単なやりとりが自然に、そして前向きに取り組める生徒が多い。・英語の音声には慣れているため、発言など積極的にできるが、書く活動になると定着に差が見られる。・英語でのコミュニケーションを楽しみ、ペアやグループでの活動、発表活動を意欲的に取り組める。・ALTや教師に対して、英語で話すことをチャレンジする生徒が多い。一方で、緊張感などを感じる生徒もいる。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

- ・小学校の外国語活動では、音声中心の授業（聞く・話す）であるため、英語に対する抵抗力は無い。しかし、「書くこと」「読むこと」においては慣れていないこと、そして定着の個人差が大きい。特に、「書くこと」については自主的に取り組めるようになることも課題である。
- ・どの生徒にも、「英語で話す」機会を与えることと、「間違いを恐れずに楽しんで学ぶ」という気持ちをもたせることが課題である。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
言語能力の育成	<ul style="list-style-type: none">・「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能を育成するために、バランス良く1時間の中に入れる。・「書くこと」については、毎回宿題を出すこと、朝テストを「書く」題材にして定着させる。また、基礎力を上げるために、長期休業の課題で英単語100問を行い、語彙力を向上させる。・「スタンプカード」を活用し、自主的に取り組んだものを意欲点に加えることで、生徒の学習に対するモチベーションを高める。（「書く」ことは、ライティングノートを活用させる。）・発表活動や会話活動を多く取り入れ、コミュニケーションの意欲をさらに高める。
個に応じた指導	<ul style="list-style-type: none">・少人数授業の特性を生かし、机間指導や個々の生徒への声かけを密に行う。・ワークやノートなど提出物の点検の際には、課題への取組が難しい生徒については助言や声かけを徹底する。・ALTを活用し、話すこと、書くことへの指導を個々に行う場面を作る。また、前向きに英語でのコミュニケーションを楽しめるよう、授業内で声かけをする。
教材の工夫	<ul style="list-style-type: none">・ICT 機器を授業の中で効果的に取り入れ、視覚的な情報からも理解を促せるようにする。